



WEEKLY REPORT ROTARYCLUB OF hakusanishikawa

ガバナー方針:「ロータリー」の魅力を広めよう
クラブ基本方針:活動を通じて、ロータリーを楽しもう

白山石川ロータリークラブ

2023年7月20日 No. 1006

会長: 藤本 和久 幹事: 本島 大昌 公共イメージ委員長: 小路 昌弘
クラブ会報委員長: 山根 純子 副委員長: 小村 克俊 委員: 多田 茂, 埴岡 正稔, 米島 學, 新田 真希
事務局/ 白山市西新町 159-2 松任産業会館 4 階 TEL076-274-2907 FAX076-274-2908
Mail:info@hakusanishikawa-rc.jp HP://www.hakusanishikawa-rc.jp

◆会長挨拶

(藤本和久会長)

皆さん、こんばんは。昨日は、八日市南RCに本島幹事と西川会員と共に新任挨拶に行ってきました。これで白山・野々市・八日市南RCの3つのクラブを訪問させて頂きました。それぞれに例会の運営等が違っていたので参考になり、他のクラブへも訪問したいと思います。



来週7月25日の9時35分着で小松空港に派遣交換留学生の北山一樹君がアメリカから帰国します。出迎えたいと思いますので都合がつく人は、9時30分迄に小松空港に集まって下さい。

来週は第2610地区原勉ガバナーの公式訪問となり、畠善昭ガバナー補佐と宮本哲一地区幹事も来られますので、早く来てお迎えしたいと思います。今日は各担当委員長の就任挨拶となります。それでは本日も宜しく願い致します。

◆幹事報告

(本島大昌幹事)

7/14 ガバナー・ガバナーエレクト合同事務所より7月27日ガバナー公式訪問のご案内が届く。
会長・幹事懇談会: 17時30分～
同行者: 石川第1グループBガバナー補佐 畠 善昭 (金沢北RC)
地区幹事 宮本 哲一 (白山RC:)



7/14 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会よりハイライトよねやま280号が届く。友愛の広場にもございますのでご覧下さい。
7/14 石川県立松任高等学校 校長 中町 玲子より令和5年度 一年生職業体験学習受入について(依頼)が届く。
日程: 11月15日(水)～11月17日(金)
返信期日: 8月22日(火)
7/19 地区国際青少年交換委員会委員長 安川 弘哲より受入オリエンテーションのご案内が届く。
日時: 2023年8月6日(日) 10:30～12:00
場所: 石川県国際交流センター 第3研修室
各ホストクラブより、クラブ幹事(ご出席できない場合は

青少年奉仕委員長または国際青少年交換委員長)、ホストファミリーの代表、交換学生のカウンセラーの3名のご出席をお願いいたします。

- 7/19 ガバナー・ガバナーエレクト合同事務所より自然災害による被害ご報告についてのお問い合わせが届く。ロータリアンの家屋やその他、関係する施設等の被害があれば、ガバナー・ガバナーエレクト合同事務所までご連絡願います。
- 2022～23年度派遣交換留学生 北山一樹さんの帰国について
日時: 2023年7月25日(火) 小松空港着9:35

◆プログラム

クラブフォーラム 各担当委員長就任挨拶



福田裕
職業分類・R情報委員長



西川隆司
会員選考・会員増強委員長



多田茂
職業奉仕委員長



新本雄一
社会奉仕委員長



青少年・国際奉仕委員長代理
林哲也奉仕プロジェクト委員長



野澤誠治
ローターアクト委員長

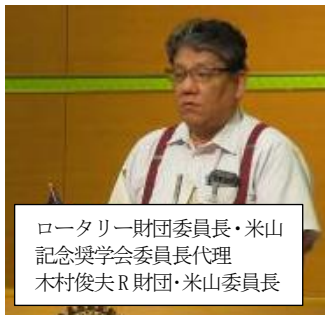
◆出席報告

(織田一彦副委員長)

- 出席率：64.10%
- 出席者：39名 / 25名
- 出席補填：0名
- 出席免除者：なし
- メーキャップ：4名

7/17 地区米山学友会第18回定期総会：西川 隆司

7/19 八日市南 RC：藤本 和久、本島 大昌、西川 隆司



ロータリー財団委員長・米山
記念奨学会委員長代理
木村俊夫 R財団・米山委員長



小柳善裕 広報・雑誌委員長



山根純子クラブ会報委員長



織田一彦 出席副委員長

◆ニコニコBOXの発表

(横川賢悟委員長)

藤本 和久 会長

各担当委員長の皆様、就任挨拶ありがとうございました。今年度一年間よろしくお願ひします。

本島 大昌 幹事

皆様、ご出席いただきありがとうございます。

林 哲也

長女のカナダ留学の出発日程が決まりました。8月19日(土)となりました。さみしくなるかも・・・

池元 ことみ

孫の北山一樹が一年の派遣留学を終え、来週帰ってきます。皆さん本当にありがとうございました。

毎日暑いです!! 痩せる思いをしております。食欲は落ちませんが・・・

野澤 誠治

今日は久しぶりに清々しいお天気でしたね。良いゴルフ日和でしたね・・・

本日合計 5,000円 今年度累計 60,000円



横川賢悟
ニコニコBOX 委員長



福永哲夫 プログラム委員長



山本篤 炉辺会合委員長



横川賢悟 親睦副委員長



新陽一郎 SAA

「奉仕の理念」と経営

ロータリーの「奉仕の理念」を自らの経営で実践することが、ロータリアンには求められます。この章では、その範例となる3人の日本人ロータリアンをご紹介します。

松下幸之助さん（大阪 RC） 1894—1989

松下幸之助さんは、松下電器産業（現 パナソニック）の創業者として知らない人はいませんが、大阪 RC の篤実な会員でもありました。松下さんの背広の襟には、いつも松下の社章とともにロータリー・バッジが付けられていました。大阪 RC の例会にメイクした人が SAA をやっていた松下さんにゲスト席まで 丁重に案内されて恐縮した、とか、別のある人がメイクしたときは、会場で席を探していたら、松下さんに手招きされて隣に座らされ、「君、松下君と呼んでくれたまえ」と言われて困った、とかのエピソードが残されています。松下さんが「奉仕」に目覚めたのは、昭和7（1932）年のことでした。ある人に誘われて天理教本部に見学に行ったとき、そこで生き生きと奉仕活動をする信者を見て、社会的使命のために働くことが幸福を導くことを悟ったのです。松下さんが37歳のときでした。後に松下さんはこの年を「命知元年」と呼んでいます。パナソニックのウェブサイトを見ると、今でも経営理念として、松下さんが昭和4年に掲げた「綱領」が載っています。パナソニック 綱領 産業人タルノ本分ニ徹シ 社会生活ノ改善ト向上ヲ図リ 世界文化ノ進展ニ 寄与センコトヲ期ス（昭和4年）松下さんが昭和55（1980）年に書いた本の中で、「企業の社会的責任」とは何かを定義しています。『企業の社会的責任』とは、①企業の本来の事業を通じて、社会生活の向上、人びとの幸せに貢献していくこと。②その事業活動から適正な利益を生み出し、それをいろいろな形で国家社会に還元していくこと。③そうした企業活動の過程が、社会と調和したものでなくてはならないこと。これは、言わば松下幸之助さんの CSR 論ですが、ロータリーの職業奉仕理念、そのものにも思えます。

立石一真さん（京都南 RC） 1900—1991

立石一真さんは、立石電機製作所（現オムロン）の創業者で、京都南 RC の第14代会長を務めました。28立石さんは、企業はただ儲けるためにあるのではなく、社会に奉仕するためにある、として「企業の公器性」を社員に熱心に説き、それを社憲という形にして示しました。基本理念「企業は社会の公器である」社憲「われわれの働きでわれわれの生活を向上しよりよい社会をつくりましょう」「『最もよく人を幸せにする人が最もよく

幸せになる』—これが人生七十余年に及ぶ人生を振り返って得た結論であり、同時に私の信条信念である。」というロータリーの第2 motto を髣髴とさせる言葉を残しています。

小倉 昌男さん（銀座新 RC） 1924—2005

クロネコヤマトの宅急便を創ったヤマト運輸の元会長小倉昌男さんは、銀座 新RCの会員でした。ヤマト運輸はもともと関東を中心としたトラック運送をしていました。デパート（三越）の配送の下請けもしていましたが、そういう仕事を全部やめました。宅急便という今までどこにもなかったサービスが日本には絶対必要だと信じた小倉さんは、「そんな事業うまくいくはずがない」と社員全員が反対するのを押し切ってクロネコヤマトの宅急便を開発しました。今から35年前、1976年サービス開始の初日の取り扱い個数は、わずか11個であったそうですが、現在は年間12億個以上を取り扱い、私たちの生活に欠かせない、なくてはならないサービスになっています。クロネコヤマトのサービスは「ダントツのサービス」でなければならぬ、と小倉さんは言います。「ダントツのサービス」とは、お客様に100%の満足を与えること。具体的には、約束した日に預かった荷物をまちがいがなく傷つけないで配達し、お客様との約束を絶対裏切らないこと、です。小倉さんが宅急便事業を始めるにあたって掲げたスローガンが「サービスが先、利益は後」という言葉です。小倉さんは「サービスが先、利益は後」というスローガンをクロネコヤマトのセールス・ドライバーに言い続けました。先に利益を考えなくてもよい。利益はダントツサービスの結果である。だから「サービスが先、利益は後」というわけです。ヤマトの絶対目標は、「お客様の立場に立って考える良いサービスの実行」でした。小倉さんが言い続けた「サービスが先、利益は後」というのは、「サービス」と「利益」の関係を理解しない人からは「きれいごと」と聞こえたかも知れません。しかし、きれいごとでクロネコヤマトは伸びたわけではないことを、私たちはよく知っています。今までどこにもなかったサービス、生活になくはならないサービスとして世の中から認められたから、クロネコヤマトは成長したのです。ロータリーには二つの motto があります。“Service above Self”と“He profits most who serves best”の二つです。小倉さんの「サービスが先、利益は後」という言葉は、この二つのロータリー・ motto を凝縮した言葉、ロータリアンであった小倉さんならではの言い回しであったと思われます。

（ロータリーの基本～研修の手引き～第2840地区 2011—12年度 地区研修委員会より）